福島県
小学校長会
会報

●巻頭言…… 1
●教育ニュース
今後の諸課題について
～管理の視点から…… 2
●特集「福島に誇りをもち　多様な他者と協働しながら持続可能な社会を創る子どもの育成」…… ３～６
●支会だより…… ７～10
●ふくしま人この道に生きる… 11
●表彰、役員・事務局員名簿… 12

「変革」は進んでいる

福島県小学校長会副会長　大　内　克　之

「不易」に縛られていては、創造的な変化は生まれない。「流行」を柔軟に取り入れてこそ教育の普遍的な使命が果たせるのである。今こそ、私たち学校のリーダーが前例踏襲の意識を捨て、勇気をもって「変革」に取り組んでいかなければならない。すべての事はもっとよくなる。この意識をみんなで共有し「変革」に向けて力強く前進する校長会でありたい。

以上が、いわき市校長会の活動方針に込めた私の思いです。うれしいことに、いわきの「変革」は着実に進んでいます。

「校長こそが率先して学んでいこう」と菅野輝義事務局長は多くの研修会を企画してくれました。元千代田区立麹町中学校長の工藤勇一氏、世界8000校以上にリーダーシップ教育プログラムを提供しているフランクリン・コヴィー社インターナショナル総括副社長のウィリアム・ビル・マッキンタイヤー氏、バルセロナで先進的な経営マネジメントを学んだ元Ｊリーガーでいわき FC社長の大倉智氏、文科省GIGAStuDXチームの徳永一夢氏など、様々な分野のリーダーから学んだのは「変革」に向けたチャレンジ精神です。

校長会行事の「変革」も進んでいます。各種大会や会議、他団体との連絡協議会など、これまでの当たり前を見直してきました。蛭田紀隆陸上競技部長は陸上大会を目的から再検討し、勤務時間内で効率よく大会が運営できるプログラムを完成させました。外部の競技役員を30名以上集めて教職員の負担を大きく減らしました。志賀秀幹生徒指導部長の働きにより、例年実施してきた退職校長と生徒指導について話し合う「いわき十日会青少年健全育成協議会」が取り止めとなりました。これまでは現職校長20名以上が、平日に学校を離れて会議に参加していました。各行事等の目的と必要性の検討が進んでいます。これらの画期的な取組は「変革」の精神をもった実行力あるリーダーのおかげです。

各学校の「変革」も進んでいます。カリキュラムマネジメントにより「人間科」を立ち上げた学校、学校課題の解決に向けてリーダーシップ教育プログラムを導入した学校、ＡＩを活用した授業に取り組んでいる学校、午前５校時の時間割により午後のゆとりを生み出した学校、チーム担任制の取組を始めた学校、ＰＴＡに代わる地域ボランティア制度をスタートした学校、運動会を平日に移した学校、年度末の学力テストや学習発表会、通知表の所見、宿題の廃止を進めている学校など、多くの校長が新しい取組に挑戦しています。

いわきならではの多様性と柔軟性、チャレンジ精神にあふれる校長先生が多くてうれしいです。みんなでファーストペンギンを競い合っています。

さて、今年100周年を迎える県小学校長会は、様々な経歴や教育観をもつ380名近いリーダーにより組織されています。最大の強みは、多様性、様々な視点から物事を考えることで従来の枠にとらわれない新しいアイディアを生み出すことができることです。今年は巳年、自分の殻を破り脱皮して成長する蛇のように「変革」を加速させ、大きく成長する校長会にしていきたいと考えています。

私の理想は「子どもがスキップして登校してくる学校」です。校長会の進める「変革」が、子どもにとっても先生にとっても幸福感の高い学校づくりにつながっていくことを願っています。

今後の諸課題について～管理の視点から

福島県教育庁義務教育課　主幹　原田　博司

日頃より当委員会の教育施策に御理解と御協力をいただき誠にありがとうございます。今回、この場をお借りし管理に関連する諸課題について、いくつか述べさせていただきます。

まず、少人数教育についてです。全国に先駆け平成14年に導入された少人数教育は、県内各校でそのメリットを生かすべく、様々な取組がなされてきました。集団の少人数化、複数教員の配置を推進することにより、児童生徒の一人一人に対してきめ細かな指導や支援が可能になるとともに、学習意欲の向上、個に応じた指導の充実、協働的な学びの充実へと繋がっています。しかしながら、その一方で、昨今では少人数教育が当たり前の環境となり、戦略をもって取り組むことへの意識が低下しているとの指摘もあります。義務教育課は、少人数教育改善チーム会議の中で、各校の実践を分析し、今後の本施策の方向性について協議しています。国が推進する教科担任制の拡大と関連し、少人数教育は今、分岐点に差し掛かっていると言えます。

次は、管理職昇任についてです。県教育委員会では、昨年度に続き、校長特例任用の募集を行いました。ご存じの通り、特例任用が実施された理由は、教頭昇任志願者の減少です。今年度は、各所属長のご尽力により、昨年度を若干上回る志願者数となりましたが、それまでは、毎年50人前後の減少を辿ってきました。義務教育課としても志願者増に向けて、今年度より女性推薦枠の導入、小論文の廃止など、選考試験等について見直しを図ったところです。各学校におかれましても、引き続き、計画的なミドルリーダーの育成と管理職昇任考査受考の奨励をお願いいたします。また、本県の女性管理職の登用率は令和６年度で13.4％であり、令和５年度の11.3％から上昇していますが、全国23.7％（令和５年度）と比較すると依然として開きがあります。各校において、教務主任や生徒指導主事等のポストを意図的に女性教員に充てるなどして、昇任への意識を高める取組を引き続きお願いしたいと思います。

次は、働き方改革についてです。県教育委員会では、現在「教職員働き方改革アクションプラン」の年次改訂に向け、関係会議を重ねています。既に各校において、様々な工夫がなされているところではありますが、児童生徒と向き合う時間の確保や授業改善のための教材研究の時間など、教職員が本来行うべき業務に集中することができるよう校長会とも連携し取り組んでまいります。

最後に、不祥事防止についてです。今年度４月から12月まで、本県の公立小中学校の懲戒件数は、12件（分限免職含む）で、昨年度（４～12月）の８件を上回っており、危機的な状況となっております。綱紀粛正に向け、職員課より10回、義務教育課より緊急で１回の通知を発出しましたが、歯止めがかからない状況です。そのような中、12月には大沼教育長自ら全教職員に対して緊急メッセージを届けました。一人一人が今の事態を重く受け止め、不祥事の根絶に努めなければなりません。県教委、市町村教委、学校が一体となり、学校の信頼を取り戻すことが求められています。その先頭に立つのは、我々管理職であることは言うまでもありません。

以上、今後の管理に関する諸課題を挙げさせていただきました。義務教育課としても、それぞれの課題の解決に向け、着実に前進していく所存です。今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

しらかわ

学校経営・運営ビジョンの具現に向けて教職員の実践意欲を高める学校経営の工夫

泉崎村立泉崎第二小学校　笹山　美紀子

1　はじめに

先行きが不透明で予測することが困難な時代にあっても、子どもたちが豊かな人生を切り拓くことができるよう、必要な資質・能力を明確にし、しっかりと育んでいくことが学校教育に求められている。東西しらかわ支会の矢吹班では、各校の実態、実情を踏まえ、未来を切り拓く力を育む学校経営・運営ビジョンを策定し推進していく上での校長の果たすべき役割と指導性を模索した。その研究の一端を紹介する。

2　テーマに関する実践

特集テーマである「福島に誇りをもち多様な他者と協働しながら持続可能な社会を創る子どもの育成」には、教職員一人一人が自分事として学校課題を把握し、積極的に学校運営に参画しようとする実践意欲が重要である。その実現を図るため、３つの実践の柱を設定した。

【柱１】現状把握と分析による学校課題の明確化
【柱２】課題解決に向けた教職員のビジョン作成への参加促進
【柱３】共通理解を深め、実践意欲を高める校長の働きかけ

(1)　特色のある実践例

①　学校評価等を生かした学校課題の把握
　学校評価や児童意識調査等の結果の可視化を図り、学校の実態や課題を教職員が把握することができるようにした。

②　全教職員が学校課題や解決策を共有するための方法・手段
　校内委員会の体制づくりを見直し、各主任等を中心に情報収集を図り、組織的な対応を行った。また、ワークショップ型での会議を設定する等工夫した。

③　学校評価と自己目標とビジョンの整合性
　学校運営・経営ビジョンと教職員それぞれの自己目標、学校評価アンケートの整合を図り、学校及び教職員の取組が一元化していることを共有した。

④　教職員の参加意識を高めるための工夫
　学校経営・運営ビジョンの焦点化を目的に教育目標の具現化のために必要な事項を選択するアンケートを全教職員に行った。

⑤　教職員一人一人が自分事として捉えるための働きかけ
　言葉による指導助言だけでなく、様々な視点から資料を作成し「目指す子どもの姿」や実践内容、実践方法を具体的にイメージできるようにした。（職員会議示達・週案添書・研究授業評・校長室だより等）

⑥　幼小中及び家庭、地域との連携
　学校運営協議会において、ビジョンをもとに熟議を行って内容や経過・決定事項などを教職員で共有し、保護者や地域の方と共に課題解決に取り組んだ。

(2)　成果と課題

○　学校課題を可視化することにより、課題が明確になり、教職員の課題に対しての意識が高まった。

○　ワークショップや熟議等、会議の在り方や方法を変えていくことで、教職員の意識に変化が見られ、学校課題の共通理解の上、課題解決に向けた取組についての意見を出し合うなど、学校全体の活性化につながった。

○　ビジョンをもとに教職員人事評価制度の自己目標を設定させることにより、ビジョン作成の参画意識をもつことができた。

○　「目指す子どもの姿」について様々な機会を通して具体的に示すことにより、教職員のビジョンの共通理解とその具現に向けての意識向上につながった。

○　学校運営協議会を生かし、教職員と保護者・地域の思いを共有することにより、教職員がより広い視野でビジョン作成への意識をもつことができた。

●　教職員で共有することの重要性は十分理解しているが、その時間の確保が難しい。

●　今後も教職員の実践意欲を高め、さらには、共通実践のもと課題解決ができるよう組織力の強化を図っていきたい。

3　むすびに

校長の働きかけが、教職員の意識改革やビジョンの具現に向けた実践意欲を高めることに大きく関係していることを痛感した。今後も、目指す学校の姿を具現していくために、校長の果たすべき役割と指導性を検証していく。

最後に、東西しらかわ支会での学校経営に関する研究実践をとおして、日頃の悩みを情報交換することができることに改めて感謝したい。

北会津　家庭や地域の教育力を学校経営の基盤とし、持続可能な社会を創る子どもの育成

会津若松市立日新小学校　岩渕　邦雄

1　はじめに

本校は、会津若松市内西部に位置し、会津藩校日新館の名を校名に持つ伝統ある学校で、全校生317名、16学級の明るく活発な子どもたちである。近くには鶴ヶ城の遺構「御三階」や歴史的建築物が数多く並び、「七日町通り」は年間30万人も訪れる観光地である。また、ＰＴＡ・地域住民との結びつきが強く、ボランティア活動も盛んで、平成12年からは、地域住民との合同運動会が開催されている。こうした地域の教育力を学校経営の基盤とし、持続可能な社会を創る子どもを育てる特色ある教育活動を紹介したい。

2　持続可能な社会を創る子どもの育成

(1)「七日町通り」商店街を生かした取組

会津若松は1593年に戦国武将の蒲生氏郷によって整備された城下町で、道路・水路の整備や酒・漆器・工芸品などの産業振興は現在も受け継がれている。「七日町通り」は、当時の会津五街道の日光・越後・米沢の３つの街道が通る西の玄関口として、問屋・旅籠・造り酒屋・料理屋などが軒を連ねて栄えていた。一時衰退していたが、平成６年に「七日町通りまちなみ協議会」が設立され、大正時代の洋館や蔵など歴史的建物を整備し、レトロな町並みや景観を生かして商店街を蘇らせた。また、まちなみ協議会では次世代の教育と伝承にも力を入れている。

本校では、こうした地域の伝統や歴史、特色を題材に、２年生「もっとなかよしまちたんけん」、３年生「すごいぞ！日新」、５年生「会津の伝統を発信しよう」、６年生「会津の歴史を学ぼう・発信しよう」の学習が、生活科や総合的な学習等で実施されている。また、会津若松市教育委員会の支援を受け、伝統文化の職人の講話を聞いたり、体験をしたりしながら、商店街の人々の思いや願い、会津の歴史や文化を学んでいる。そして、校長として、次世代を担う児童に郷土愛を育むために、意図的・計画的なカリキュラムの編成を方針として示している。

(2)　ＰＴＡ・地域諸団体を生かした取組

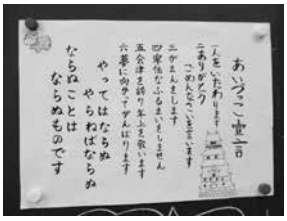
①遊びから学ぶ「日新プレールーム」

平成14年から年間６回、土曜日の午前中に、ＰＴＡの計画の下、体育連盟、子ども会育成会も協力して開催している。ニュースポーツやダンス、巨大風船づくり、ドッジボールなど、様々な遊びを通して、多くの児童や大人と関わることで、豊かな人間性の育成に寄与している。

②子ども会育成会主催「学校で遊ぼう」

年間１回、11月の日曜日に開催している。今年は、防災教育を加えるよう意見し、市危機管理課職員による防災講話や避難所用ダンボールベッドの組み立てを行い、地域課題を考える機会となった。各種団体とも連携し、校内オリエンテーリングをしたり、カレーライスを一緒に食べたりするなど、地域の方の喜びにもなっている。

③青少年育成協議会主催「あいづっこ宣言作文コンクール」



あいづっ子宣言は、青少年の犯罪増加を危惧し、家庭・学校・地域の共通指針が必要だと考え、平成14年に市が制定したものである。本校でも朝の会で毎日唱えているが、それらの意味を考え、生き方につなげていくことが大切である。そこで、青少年育成協議会主催のコンクールを行っている。冬休みに書いた「あいづっこ宣言」の作文を、学校、PTA、地区代表で審査し、各学年８名を選出する。２月の表彰式には、多くの児童と保護者が参加し、家族みんなの晴れやかでうれしそうな表情を見ることができる。児童の才能や能力、夢に気付き、さらに伸ばそうとする機会にもなっている。

3　むすびに

“今”ある児童の才能や能力を輝かせるためには、“過去”の人々の願いや思いを知り、心に刻み、“未来”へ向かって夢や可能性を求め続ける志が必要ではないか。その基盤となるのが、児童の夢や可能性を信じて、ともに歩む保護者や地域住民である。これからも、家庭や地域の教育力を学校経営の基盤として位置づけ、教職員とともに、組織的・計画的に推進して参りたい。

耶麻

地域のよさに気づき、誇りをもって地域の未来に一歩踏み出す児童の育成
～卒業証書作りと伝統芸能の継承を通して～

喜多方市立松山小学校　穴澤　正志

1　はじめに

本校は、喜多方市教育振興基本計画「自分と郷土を誇り、自立と共生の精神をもって、たくましく生きる喜多方人の育成」を受け、学校のシンボルツリーである「けやき」より「け　健康で明るい子ども」「や　やるき十分な子ども」「き　きまりを守る子ども」を教育目標としている。

本校の特色として、地域との連携によるこうぞ栽培から始める手作りの「卒業証書作り」や「伝統芸能の継承」の実施が挙げられる。

2　実践の概要

(1)　世界に１枚しかない和紙の卒業証書作り

こうぞの間引き

紙すき体験

本校では20年前より地域の協力を得て、和紙の卒業証書作りをしている。これは、かつての地域産業であった和紙作りの伝統を復活させるもので、６年生の総合的な学習の時間の13時間を割り当てて実施している。

紙作りには、７月の「こうぞの間引き」から始まり「刈り取り」「皮むき」「こうぞ煮」「たたき」を経て、12月の「紙すき」という工程がある。これらは、教員の技量ではできないものばかりであり、地域の協力があってこそ「紙作り」という極めて専門的な知識と技量が必要な体験活動の充実につながるのである。

子どもたちは、地域の方には１年生のころから農業科の野菜栽培や米作り等でお世話になっているため、その知識や技術にふれる経験が、年を追うごとに蓄積され、地域の方への「親しみ・感謝・尊敬」が、児童の心の中に自然に生まれていることを実感している。

このような活動を通した地域とのふれあいにより生まれた「子どもたちの地域の方への親しみ・感謝・尊敬」や「地域の方の子どもへの愛情」が世界に１枚しかない卒業証書という結晶になる。

こうして額縁に入った卒業証書が、皆が団らんする居間に誇らしげに飾られるのである。

(2)　地域の伝統芸能　中村彼岸獅子の継承

演舞の練習

演奏の練習

本校では、令和３年度より４年生の総合的な学習の時間の12時間を割り当て、郷土を誇り、郷土に貢献できる児童の育成を目標に「中村彼岸獅子保存会」の協力を得て、伝統芸能の継承に力を入れている。

単元の始めには「民俗芸能を継承するふくしまの会」の懸田弘訓氏を招聘し、地元の伝統芸能である「中村彼岸獅子」の由来、踊りや衣装の意味について理解を深めることをスタートとする。次に保存会の指導を受け、演奏・演舞の練習を重ね、最終的に地元公民館に地域の方を招待し、発表会を実施するというカリキュラムである。

こうした体験をした子どもからは「保存会の方から丁寧に教えていただき、楽しい体験ができた。」「地域の伝統芸能を学ぶことができてよかった。今後も続けていきたい。」などの感想が、例年聞かれることとなる。

3　むすびに

このような地域との連携が、本校の体験活動の充実につながっているのだが、地域の方の高齢化が進み「指導者の確保」が課題となっている。現在、保護者等の協力を含めた支援体制を検討している。

校長として、児童をさらに地域に一歩踏み出させるためには、地域に対する誇りを心の奥にしっかりと根付かせるとともに「今、自分たちに何ができるか。地域の未来のために何を考え、何を実行していけばよいか。」について深く考えさせることが大切であると思う。

この取組を持続させるためには改善点は多々あるが、子どもと地域の未来のために一歩ずつでも前へ進んでいきたい。

両沼

西山に誇りをもち　地域の方々とかかわりながら　豊かな自然を守り、育て、地域を創ることができる児童の育成

柳津町立西山小学校　齋藤　知宣

1　はじめに

本校は、奥会津柳津町の中心部から車で20分ほど離れた西山地区に位置し、山あいの美しい自然に囲まれている。古くは杉の産地として知られた地域であり、近くには地熱発電所が稼働している。令和６年度で152周年を迎え、現在10名の児童と13名の教職員で、恵まれた自然環境をいかした教育活動を行っている。

春の校舎全景

2　テーマに関する実践

(1)　森林環境学習

町地域振興課の方、森の案内人の方にお世話になり、各学年で年２回、近くの山や自然をフィールドに、森林にまつわる学習を行っている。

博士山、桂の大木の前で

(2)「奥会津地熱」の方々を招いての授業

授業の様子

第６学年理科の時間に「奥会津地熱」の方々から、西山地区の地質や地熱発電について教えていただく時間を設定している。

(3)　ロードフラワー活動

幹線道路から本校への入り口付近の道路両側、花壇と土手に地域の方にお世話になりながらマリーゴールドを植える活動を行っている。中学生も一緒に行っている。地域貢献の意識と自己肯定感をもつことができている。

土手のマリーゴールド

(4)　秋に親しむ会

年に一度、10月に、西山地区の自然に親しむ会を実施している。今年度は、柳津町の名所となっているツムジクラ滝への遠足を実施した。展望所で弁当を食べ、スケッチや木々の観察を行った。年により、三十三観音詣りや温泉掘りなどの活動も行っている。

ツムジクラ滝を写生

(5)　スキーの体育科授業

冬場の積雪を活用し、学校の校庭でスキーの学習ができる。ゲレンデは、例年、除雪隊の方々に重機で学校の校庭に作っていただいている。スキー学習のまとめとして、全学年で金山町のスキー場に出向き、スキー教室も行っている。指導者として保護者にも協力していただいている。

校庭でのスキー学習

3　むすびに

西山小は豊かな自然環境、そして協力的な保護者や地域の方々に支えられ、教育活動が行われている。本校児童には、ぜひ、その実感や西山という地域に育ったことのありがたさを存分に味わわせたい。そして、将来、地域に貢献できる人材に育てていきたい。

教職員についても同様である。地元外から通勤する職員が多く、地理的に遠距離、奥深い山あいの地ということで大変さもあるが、恵まれた教育環境の中で理想の教育ができる西山小での勤務を通して、教職員としてのやりがいと成長を実感してほしいと考えている。

今後も、校長として、西山という地域を中心に置き、児童、教職員、保護者、地域の方々、それぞれのウェルビーイングをめざし、学校経営にあたっていきたい。

児童・保護者・教職員

福島　子どもたちと学校の未来を見据えて

福島市立福島第一小学校　鴫原　理

1　はじめに

福島支会は、福島市と川俣町の国公立45校の校長により組織され、東、西、南、北、信陵・飯坂の５方部で、年５回の定例会（全会員参加）を中心に研修会も併せて実施し、会員の力を結集して諸活動を推進してきた。

2　今年度の取組

⑴　定例会及びニーズ研修の実施

第２回定例会では、行財政部が研修を担当し、ニーズ研修として「働き方改革で教育の質を高める」というテーマで、㈱先生の幸せ研究所　大野　大輔　様による講話や、先進校の実践事例をもとにグループワークを実施した。さらに、第３回定例会でも、同じ講師を招聘してワーク・ショップを実施し、業務改善と授業改善の一体的な推進について忌憚のない意見を交換し、校長として、自校の働き方改革推進のヒントを得ることができた。

第４回の定例会では、生徒指導部が担当し、ニーズ研修として、福島市教育委員会教育研修課のスクール・ソーシャル・ワーカー　岡崎　美弥子　様を講師としてお招きし、本市における喫緊の課題である不登校児童への関わり方及びＳＳＷの役割について、具体的な事例等をもとに研修を深めることができた。

⑵　課題研究の推進

県小学校長会研究部幹事の校長先生方にご指導いただき、第53回県小学校長会研究協議会福島支会大会を開催した。次年度の安達大会に向け、現時点での各方部研究の進捗状況や今後の方向性等について、全会員で共通理解を図ることができた。

⑶　人材の育成

地区中学校長会と連携し、ミドルリーダーや管理職考査受考者を対象とした講義や模擬面接などの研修会を随時開催し、今後の本地区教育を担う人材の育成を推進してきた。

3　むすびに

今後も、会員同士の連携・結束を強化し、様々な課題解決に向けて、福島地区の子どもたちと学校の未来を見据え、会員の英知を結集し、一丸となって取組を推進していきたい。

伊達　今年度も実感した「伊達はひとつ」

伊達市立上保原小学校　五十嵐　修

1　はじめに

伊達支会は、伊達市12校、桑折町４校、国見町１校の計17校の校長で組織されている。今年度もまとめの時期を迎えたが、文字通り好調な校長会となった。

2　今年度の取組

⑴ 主題研究・推進

今年度は、第９分科会「危機対応」と第８分科会「自立と社会性」に分かれて研究を推進した。伊達地区独自の取組である「アセスメントシート」の有効活用を図るべく、各校での実践をもとに、校長としての「働きかけ」を念頭に置き、協議してきた。12月には、県北教育事務所主任指導主事　朽木克明　様を指導助言者にお迎えし、研究集会（小中学校長協議会　伊達支会大会）を実施した。前述の研究について、代表校長が今年度の研究の成果を発表し、実りのある会となった。

⑵　研修等（小中学校長協議会での取組を含む）

○講演「笑いと健康」（６月）

講師：福島医大疫学講座　大平哲也　様

校長職は、ストレスの多い職である。研修を通して、笑いを生活の中に取り入れて健康的に過ごすこと、そして校長自らが積極的に笑うことで健全な職場となることを学んだ。

○施設見学・講話（９月）

講師：道の駅国見あつかしの郷
総支配人　鈴木亮一　様

道の駅の経営に際して心がけていることや工夫していることなどをお聞きした。学校経営に通ずることばかりで、たいへん参考になった。

○教職員研修講座（６月～８月）

教頭やミドルリーダー等の人材発掘、育成のための研修会を実施した。

3　むすびに

来年度は、県小学校長会100周年、そして県小学校長会安達大会が開催される。同じ県北域内の支会として、しっかり協力していきたいと思う。今後も、各校長の創意ある学校経営のもと、校長同士の横の連携をより強くして、「伊達はひとつ」を体現していきたい。

安達　「安達はひとつ」学び高め合う校長会

二本松市立二本松北小学校　児山　秀典

1　はじめに

本支会は、昨年度から来年度の福島県小学校長会研究協議会安達大会の開催を見据え、県小学校長会事務局、研究部はもとより、福島支会、伊達支会の校長先生方と共に、25校25名の会員で計画的に準備を進めてきた。福島県小学校長会100周年の大きな節目ともなる研究協議会安達大会では、これに先立ち記念式典が開催されるが、この運営にも協力できることを大変うれしく誇らしく思っている。ご参会いただく全校長先生方にとって実り多い大会となるよう、安達支会全員の英知を結集し、舞台を整えて参りたい。

2　今年度の取組

(1)　主な年間行事

４月　安達地区小学校長会総会、第１回研修会
６月　第２回研修会
７月　東北連小弘前大会（11名参加）
８月　第３回研修会（支会大会）
　　安達大会運営会場確認と打合せ
10月　全連小徳島大会（１名参加）
12月　第４回研修会
　　第１回研究協議会安達大会運営委員会
２月　第５回研修会
随時　各専門部会
　　安達大会運営委員会専門委員会

(2)　安達大会運営に向けた準備調整

(3)　課題研究の推進

「支会全体での共同研究・実践」を一貫し、地区の危機管理に関わる実態を大きく６つの観点に絞り、自校の実態に応じた観点ごとにグループで重点化を図って研究に取り組んでいる。すでに宿泊を伴う防災キャンプ等の実践も見られ、工夫ある取組の共有も進めているところである。

(4)　人材育成

市村教育委員会の協力もいただきながら、教員採用、教頭昇任やミドルリーダー等の育成のための実務研修会を、これまでに12回開催してきた。運営する側にとってもよい研修となった。

3　むすびに

今後も「安達はひとつ」の合言葉の下、各校長の創意ある学校経営を土台としながら、組織的に機能する校長会を目指し、努力をしていきたいと考えている。

郡山　「校長同士が学び合う校長会」～変革への挑戦Ⅱ～

郡山市立開成小学校　中目　雅彦

1　はじめに

今年度も、「校長同士が学び合う校長会」の在り方の再構築を支会運営方針に掲げ、本当に大切なものは何か、私たち校長会が真に必要としていることは何かを改めて見直し、支会運営の在り方を模索しながら、挑戦的変革の実践を試みてきた。

2　今年度の取組

支会の取組を通して校長同士が学び合い、自身の資質能力の向上を図ることで、新たな教育活動の充実、創造につなげる一助とすることを目指して、小学校長会開催の冒頭に研修会を位置付けてきた。研修会のテーマについては、私たち校長会が真に必要としていることは何かを改めて見直しながら、三役会で協議し講師交渉を行った。

＜「校長同士の学び合い」（研修会）の位置付け＞

『学校マネジメント研修に参加して』
　講師　草野　節生（富田東小学校長）

○第３回市小学校長会
『本市の不登校対策』
　講師　石井　研也　氏(総合教育支援センター所長)

○第４回市小学校長会
『県立安積中学校開校に向けた具体的な見通しについて』
　講師　吉田　全　氏(県教育庁高校改革室管理主事)
　講師　坂爪　清成　氏(県立安積高等学校副校長)

○第５回市小学校長会
『郡山支会発表大会』
　講師　佐藤　崇史　氏（学校教育推進課主幹）

研修会後に方部会を位置付け、校長会の横の連携強化も図ってきた。研修会の学びに加えて、病休・休職対応の仕方などの人事管理面での課題についても、学校現場にとって最善の方策等を学び合える機会となっていた。

3　むすびに

各学校が抱える喫緊の課題、中期・長期的に対応する課題に対して、また、理想とする学校経営の実現に向けて、今年度の取組が、各学校の創意工夫と情熱を結び付ける役割を果たすものであると考える。

そして、この取組を通して校長同士が学び合い、自身の資質能力の向上を図っていくことで新たな教育活動の充実、創造につなげていきたい。

岩瀬　岩瀬は「一枚岩」

須賀川市立第二小学校　野原　光弘

1　はじめに

岩瀬支会は、須賀川市、鏡石町、天栄村の１市１町１村22名の会員で構成されている。３市町村の広い面積に点在する各校が、日々の教育活動改善・学力向上を目指して最良の手段を選択できるよう「岩瀬は一枚岩」を合い言葉につながりを深めている。

2　今年度の取組

(1)　学校経営充実のための研修会

４月の総会に加え、定期的に顔を合わせて情報交換する機会を持つために４回の地区校長会、２回の学校経営研究会の計７回を設定し、実施した。

①　先輩校長の体験発表

今年度で退職される校長先生方の教員人生の集大成をうかがう機会とし、よりよい学校経営のあり方等を示唆していただいた。

②　教育講演会

２回の講演会の機会に、県中教育事務所長様及びノーザンファーム天栄場長様から、それぞれに御講話をいただき、改善の視点を広げ、新たなヒントになるお話をうかがうことができた。

③　授業改善を第一優先にした取組・情報交換

各市町村教委と連携して推進している授業改善を第一優先にした取組について、小グループを組んで情報交換を行い、大会発表にも備え、効果の上がった取組について取りまとめた。

(2)　組織的運営による人材育成

①　新任校長研修会

協議会会長・副会長を中心に実践的な研修会を年３回実施した。本地区の特質や校長としての心得等、具体的ですぐに役立つ研修内容が好評を得た。

②　教職教養講座

中学校長会と連携し、教職員の資質向上と管理職候補者及びミドルリーダー育成のために、８講座を設定し、３日間の研修会を実施した。

3　むすびに

混沌とした情報化社会のなかで、校長として自校の実情に合った選択や判断・危機管理能力が求められ、悩み多き毎日ではあるが、個々の校長が身近につながる校長会の存在はたいへん心強いものであり、今後もお互いに交流を深め、頼りしながら学校経営にあたっていきたい。

相馬　小規模の強みを生かし

浅川町立浅川小学校　相樂　秀幸

1　はじめに

本支会は５町村からなり、今年度末の石川小学校統合により、来年度は７名という少ない会員数での組織となる。会員一人一人が複数の役職を兼務する厳しい状況ではあるが、会員相互のつながりは強く、情報の共有や相互理解を図り、密接な連携を保ちながら活動を進めている。

2　今年度の取組

(1)　地区研修会

今年度も「学校経営上の諸問題」について、代表校の問題提起を受けた話し合いの場を設けた。「多忙化解消に向けての取組」や「各種学力調査の分析に基づいた学力向上の取組」等に視点を当て、発表・研究協議を行った。

(2)　研究推進(支会研修)

本支会は、第10分科会「家庭や地域等との連携・協働及び学校段階等間の接続・連携の推進と校長の在り方」の視点１「家庭や地域等と連携・協働を深め、持続可能な社会の実現を目指して創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進」について研究に取り組んだ。アンケートの実施やそれらの分析を通して、各校の実態や地域の現状を会員全員で共有し、課題を明らかにしながら、校長として取り組むべき課題と方向性を明確にして実践を進めることができた。

(3)　専門部会活動

行財政部、研究部、生徒指導部、広報部、総務部を設け、年３回の部会等で情報共有・共通理解を図りながら、学校経営の充実に努めてきた。また、小教研等の各種教育関係団体の活動も積極的に推進した。

(4)　その他

第３回の研修会において、県中教育事務所から地区担当管理主事を講師として招き「学校経営上の諸問題」についての講話をいただいた。今後の学校経営に役立てていきたい。

3　むすびに

小規模の強みを生かした速やかな現状把握や共通理解を通し、連携を密にした迅速な対応を今後も進めていきたい。

また、地区においての地元出身の教員の絶対的な数の不足や管理職希望者の減少などの現状を踏まえ、中学校長会と連携した組織的な人材育成に力を入れていきたい。

田村　「校長としての資質能力を高めるために」

田村市立都路小学校　鹿俣　晶子

1　はじめに

田村支会は、３市町（田村市、三春町、小野町）14名の会員で構成されている。そして、行財政部、研究部、広報部、生徒指導部、体育部の５つの専門部により活動を進めてきた。

2　今年度の取組

(1)　研究の推進

令和７年度に県大会、令和８年度に東北大会の発表地区であることから、研究テーマとして「学校安全　自らの命をまもる安全教育・防災教育の推進と校長の在り方」の視点１「自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進」を掲げ、全会員で研究を進めた。

11月に支会大会を開催し、代表者発表をもとに全会員で協議をし、研究の方向を共有した。研究実践を進める上で貴重な機会となった。

12月には各校で今年度の取組について振り返り、観点に沿って研究実践をまとめ、各校の実態に基づいたさまざまな取組が報告された。それらを、研究部長が田村支会としての研究報告書にまとめ、具体的実践や成果と課題を全会員で共有することで、次年度以降の研究推進につなげている。

(2)　広報の発行（年２回）

第１号は今年度新たに会員となった７名が中心となって執筆し、第２号は今年度退職する会員を含めた７名が執筆した。各校長の学校経営や職務への思いなどを知ることができる貴重なものとなった。

(3)　生徒指導への対応

県生徒指導部調査結果の共有など地区全体としての連携強化を進め、生徒指導上の諸問題の未然防止に努めた。

3　むすびに

教職員の授業力向上、働き方改革、不祥事の根絶等、学校が抱える課題への対応、また、理想とする学校経営の実現などについて、この会を通して地区の校長同士が情報を共有し、地区内の小学校をよりよい方向へ進めていくことができるようにしていきたいと考えている。校長会での取組が各校の学校経営に反映され、子どもたちの健やかな成長につながるよう、今後も諸事業に取り組んで参りたい。

北会津　全会員、一丸となって

会津若松市立小金井小学校　髙久　賢一

1　はじめに

本支会は１市２町（会津若松市、磐梯町、猪苗代町）の23名の会員で組織されている。今年度は、７名の新会員を迎え活動を行ってきた。昨年度末の猪苗代町小学校の統合により、会員数が４名減少したが、これまで以上に会員相互の関係を密にし、活動に取り組んでいる。

2　今年度の取組

(1)　研究の推進

研究部を中心に３班構成で推進しており、１班は「Ⅱ教育課程　３知性・創造性」、２班①は「Ⅲ指導・育成　８リーダー育成（ミドルリーダーの育成）」、２班②は「Ⅲ指導・育成　８リーダー育成（管理職人材の育成）」を担当し、研究を推進してきた。８月の支会大会では、１班は次年度安達大会発表に向けて今年度の取組と成果・課題について発表した。２班は令和９年度の全国大会を見据えて、ミドルリーダーの定義付けや実態調査についての報告を行った。

(2)　各専門部の活動

行財政部、研究部、広報部、生徒指導部の４専門部を設けて活動してきた。行財政部は、学校現場の今の状況を正確に把握し、関係機関への要望活動へつなげた。広報部は、経費削減や効率化を図るために、年３回電子データによるやりとりと発行を行った。生徒指導部は、諸調査の実施と集約をし、本支会の現状と課題を「生徒指導部だより」にまとめ、課題の共有化を図った。

(3)　現職・退職校長会「教育懇談会」の開催

小中合同による、現職・退職校長会教育懇談会を開催した。今年度は、会津教育事務所長吉川武彦様を講師に迎え、会津域内の学校教育の現状と課題についてご講話いただいた。その後、中学校区ごとに集まり、現職校長が現状について説明し、退職校長よりご助言をいただいた。退職校長との話し合いは、協議の時間に留まらず､懇親会においても話し合いが続けられた。

3　むすびに

学校が抱える課題は多岐に渡っており、困難をきたすことも多い。今後も会員同士の結びつきをより一層強め、課題解決に向け、全会員が一丸となって取り組んでいきたい。

「伝統」と「挑戦」 ～ 受け継ぐもの　変えていくもの ～

白河だるま総本舗14代目　**渡辺　高章**　さん

寛政の改革で有名な松平定信公の『市民の生活をより元気に』という想いから誕生した白河だるま。その白河だるまを作る「白河だるま総本舗」は、地元の人々に長く愛され続けてきました。

伝統を受け継ぎながら、時代に合わせた新しい発想を取り入れ活躍されている「白河だるま総本舗」。14代目の渡辺高章さんに、大切にしていること、活動の原動力となっている想いなどをうかがいました。

ー白河だるまで大切にしていることを教えてくださいー

白河だるまは、江戸時代から続く長い歴史があり、顔には幸運の象徴とされている「鶴亀松竹梅」を描写しています。その特徴は、伝統として伝承しなければと考えています。

長く残っている文化には、何かしらの意味があると考えます。それが白河の場合は、「白河だるま」と、毎年２月に開催される「白河だるま市」というイベントだと思います。訪れた人は商売繁盛や無病息災等の願いを込め、一つ一つだるまの顔の表情や大きさ等を見比べて買い求めています。「白河だるま市」には毎年約15万人もの人出があります。「地域の冠を背負っている」という意識をもち、大切にしていかなければならないと考えています。

ー活動の原動力や信条としていることを教えてくださいー

現状として、「赤いだけの“だるま”」の市場は狭くなってます。

そこで形を変えながら、「いいね」「かわいいな」「欲しいね」と思ってもらえるようにしていくことが私の仕事だと思っています。

時代の流れを見極め、新しいものを取り入れながら継続していくことで、向こう10年、100年と残っていくものになるように努めています。そうしていくことが、文化となり、地域の財産となっていくと考えています。

だるまには「七転び八起き」という意味合いがあります。だるまと同じように、何事にも挑戦していくことを信条としています。

だるまは、人々の挑戦を後押ししてきました。だるまの持つその意味は大切に「これは取り入れられそうだ」と感じたことを積極的に取り入れています。伝統を重んじながら「新作だるま」に挑戦しています。

ー子どもたちへ伝えたいことをお願いしますー

私は、来年小学１年生になる子どもの父親です。子育てでは、子どもの可能性をつぶしてはいけないと考えています。自分の経験則で「それは失敗しそうだな」「無駄だな」と感じることでも、子どもたちにとっては大切な一歩。子どもの行動を止めないようにしています。まずは自分で考え、何でもやってみてほしいと思っています。

これからの未来を生きる子どもたちには「自分の脳みそで考えて行動すること」「臆せず行動すること」が大切だと思います。そうすることで『生きぬく力』が育っていくと思います。

プロフィール（現職）

・福島県白河市に生まれる。
・日本大学文理学部体育学科卒業後、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校ビジネスコース入学
・同大学卒業後、アッシュ・ベ・フランス株式会社rooms事業部に入社
・平成28年10月から家業に従事する。

秋の叙勲　～受章おめでとうございます～

令和６年度の「秋の叙勲」が発表され、本会元会員の叙勲者は次のとおりです。
なお、規定により祝電をお送りいたしました。

☆瑞宝双光章（２名）

佐久間　光春　様　　元 田村市船引小学校長（70歳）
本　田　　樹　様　　元 会津若松市立謹教小学校長（70歳）

祝　表　彰　－表彰おめでとうございます－

（敬称略）

◆文部科学大臣教育者表彰

石幡　良子（福島四）

◆福島県教育委員会表彰

○学校教育功労者（４名）

石幡　良子（福島四）　　西牧　泰彦（白河一）
横山　　修（中村一）　　大内　克之（平　一）

○特別支援教育功労者（１名）

熊谷　賀久（鎌　田）

◆永年勤続表彰（16名）

柏谷　智也（森　合）　　笹川　光威（伊達東）
相沢　　周（大　平）　　五十嵐洋之（玉　井）
関　　忠昭（日和田）　　嶋　　忠夫（金　透）
遠藤　謙一（美　山）　　米本　順一（小　野）
阿久津聖子（田島二）　　星　　英典（荒　海）
国分　洋克（楢　原）　　石井　智明（広　野）
伊藤　高宏（赤　井）　　阿部　美紀（好間二）
阿部　洋一（渡　辺）　　氏家　博行（川　部）

― 令和７年度行事予定表（案） ―

月	本会 大会・理事会等	各部会 総務・経理	各部会 行財政	各部会 研究	各部会 生徒指導	各部会 広報
4	合同事務局会① 9 事務局 常任幹事会① 合同開会式 16 パルセ 小理事会① 各部合同幹事会① 25 グリーンパレス	総務幹事会① 23 事務局	合同幹事会① 28 事務局	幹事会① 17 事務局	幹事会① 21 事務局	
5	合同事務局会② 28 事務局 常任幹事会②	総務幹事会② 26 事務局	合同部長会① 8 教育会館	部長会① 9 教育会館	合同幹事会① 1 事務局 幹事会② 部長会① 21 教育会館	
6	合同理事会① 13 グリーンパレス 小理事会② ~~相馬・双葉支会との懇談会~~		幹事会① 9 事務局 合同幹事会② 20 事務局 合同代表部長会① 30 教育会館	幹事会② 4 事務局 安達大会分科会 25 教育会館 打合せ会		幹事会① 6 事務局 幹事会② 18 リモート ※要覧発行 ※会報261号発行
7	臨時合同事務局会 未定 事務局 （要望打合せ） 県退職校長会との懇談会 14 未定	被災地視察打合せ 30 事務局		幹事会③ 11 事務局	幹事会③ 10 事務局	
8	合同事務局会③ 4 事務局 常任幹事会③ 各種団体との懇談会 100周年記念祝賀会 5 グリーンパレス 100周年記念式典 6 二本松 研究大会安達大会 6・7 二本松 合同理事会② 19 グリーンパレス 小理事会③（支会長会） 県教育庁との懇談会					
9	要望活動事前打合せ 上旬 事務局 事務局要望活動 上旬 県庁 被災地視察 18・19 大熊町				合同幹事会② 8 事務局 幹事会④	
10	中間監査 8 事務局	中間監査準備会 6 事務局		幹事会④ 10 事務局		
11	合同事務局会④ 17 事務局 常任幹事会④			幹事会⑤ 6 事務局 部長会② 19 教育会館	幹事会⑤ 5 事務局 合同部長会① 11 パルセ	
12	合同理事会③ 小理事会④					
1	各種団体との懇談会 6 事務局		幹事会② 13 事務局 合同幹事会③ 22 事務局	幹事会⑥ 6 事務局 部長会③ 14 パルセ	幹事会⑥ 20 事務局 代表部長会① 28 事務局	幹事会③ 30 リモート
2	合同事務局会⑤ 3 事務局 常任幹事会⑤ 合同理事会④・小理事会⑤ 20 グリーンパレス 小常任理事会① 感謝状贈呈式・感謝会		合同部長会② 5 パルセ	25水 幹事会⑦	合同幹事会④ 16 事務局	幹事会④ 9 リモート
3	会計監査 6 事務局 各部合同幹事会② 6 グリーンパレス 退職校長感謝会 各支会計画	監査準備会 5 事務局				※会報262号発行 ※あゆみ発行

編　集　後　記

会報260号をお届けいたします。ご多用の中、玉稿をお寄せいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

■発行　福島県小学校長会
〒960-8107　福島市浜田町４番16号　富士ビル２F
電話024(534)5411
会長　石幡良子（福島市立福島第四小学校）
■編集　長澤昭仁・丹治達也・佐藤栄治・菅野泰英・小野忠大
■印刷　有限会社 三共印刷所

(一財)福島県教育会館　事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、
ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

●夏休みの友　●福島県立高校入試問題集　◆貸し会議室
●福島県書きぞめ展　●教育関係者名簿　（教育関係者は半額）

福島市上浜町 10－38　office@kyouikukaikan.jp
TEL 024-523-0206　FAX 024-523-0208